

長野県ヤングケアラー実態調査 調査結果報告書【概要版】

2022年12月

長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課

1 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、県内の児童生徒における家族の世話の状況や、それに伴う日常生活への支障、支援のニーズ等を把握し、ヤングケアラーの早期把握と支援策の検討を行うための資料とすることを目的とする。

(2) 調査対象・回収数

児童・生徒・学生と学校を対象に調査を実施した。内訳は下表のとおりである。

児童・生徒・学生	対象者数	回答者数 (回答率)
①小学5・6年生	約 35,000 名	31,378 名 (約 89.7%)
②中学生	約 54,900 名	44,800 名 (約 81.6%)
③大学生・短期大学生	約 19,000 名	1,502 名 (約 7.9%)

学校	対象校数	回答者数 (回答率)
④小学校	364 校	321 校 (88.2%)
⑤中学校	193 校	167 校 (86.5%)
⑥大学・短期大学	20 校	11 校 (55.0%)

(3) 調査手法

無記名式のアンケート調査で、WEB 環境（実施の手引き等に記載された URL、二次元コードから案内）から任意で回答を依頼した。

- ・児童・生徒・学生：各学校を通じて調査概要を配布して依頼。
- ・各学校：各学校へ調査概要を電子メールにて送付して依頼。

(4) 調査期間

令和4年9月1日～令和4年10月25日

【本調査におけるヤングケアラーの定義】

本調査におけるヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」をいう。（以下はヤングケアラーのイメージ（例））

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

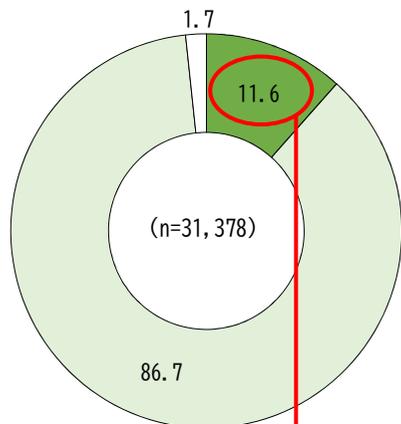
©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

2 調査結果（児童・生徒・学生編）

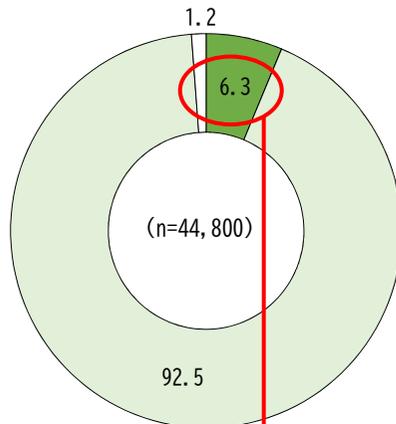
(1) お世話をしている人の有無とその家族

お世話をしている家族がいると回答したのは、小学生で11.6%、中学生で6.3%、大学生・短大生で4.5%（「かつていた」と回答したのは3.7%）

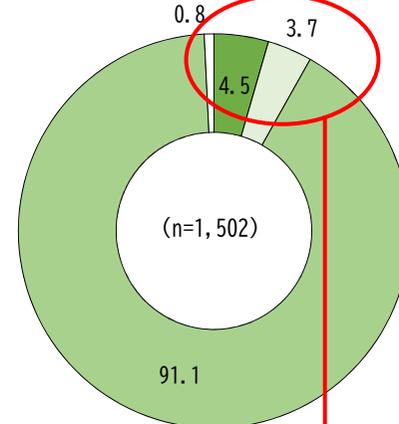
【小学生】



【中学生】

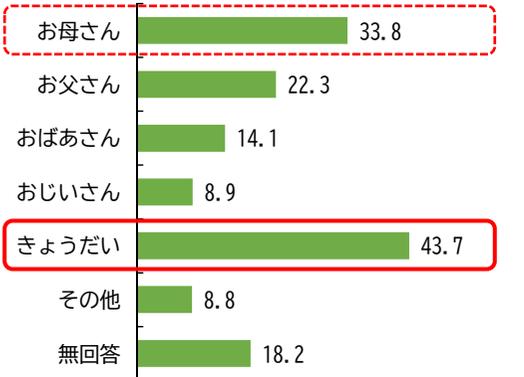


【大学生・短大生】

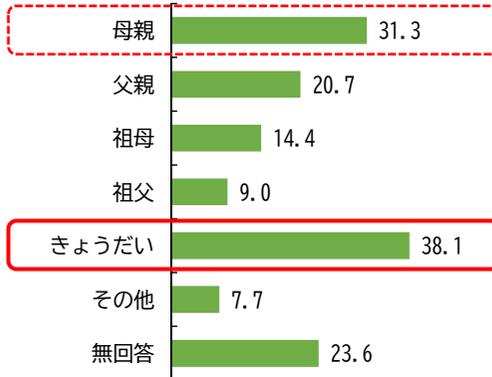


■ 現在いる
■ 現在はいないが、過去にいた
■ 現在も過去もない
■ 無回答

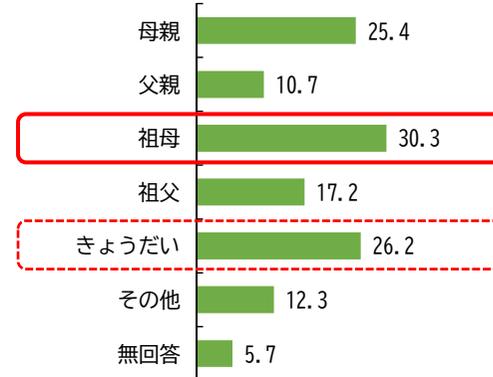
(n=3,638)



(n=2,809)



(n=122)



<お世話をしている家族のうち、最も多いのは、小学生・中学生ともに「きょうだい」で、大学生・短大生が「祖母」>

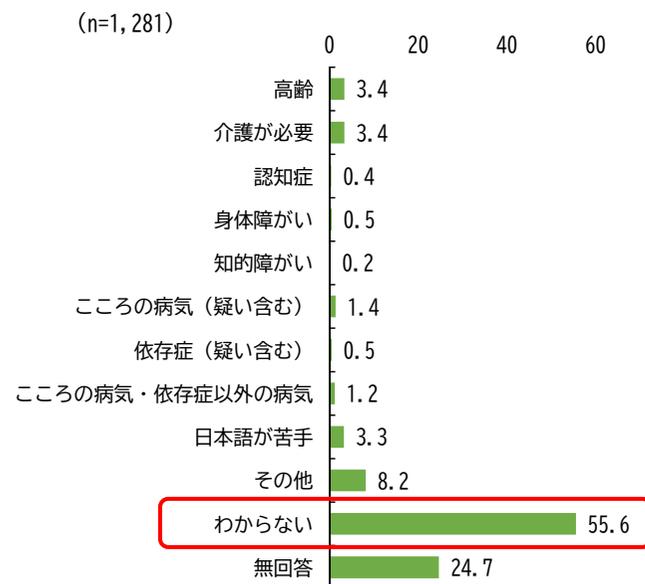
2 調査結果（児童・生徒・学生編）

(2) ① お世話をしている家族の状況（小学生）

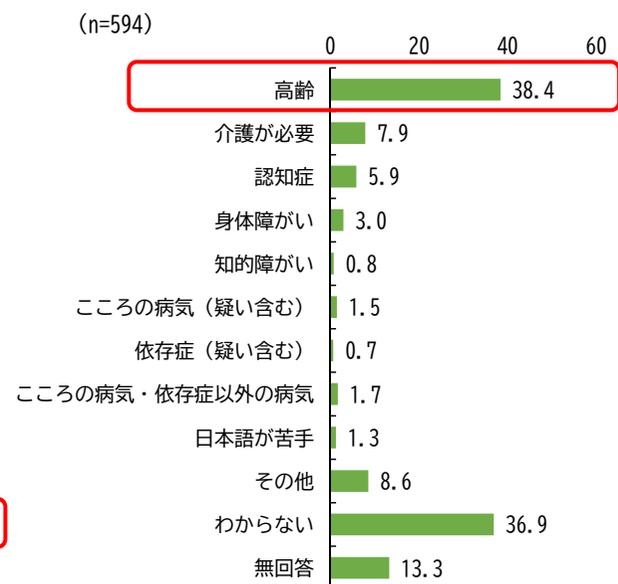
○お世話をしている家族が「いる」と回答した小学生にお世話をしている家族の状況について質問

○父母では「わからない」、祖父母では「高齢」、きょうだいでは「若い」が最も多かった。

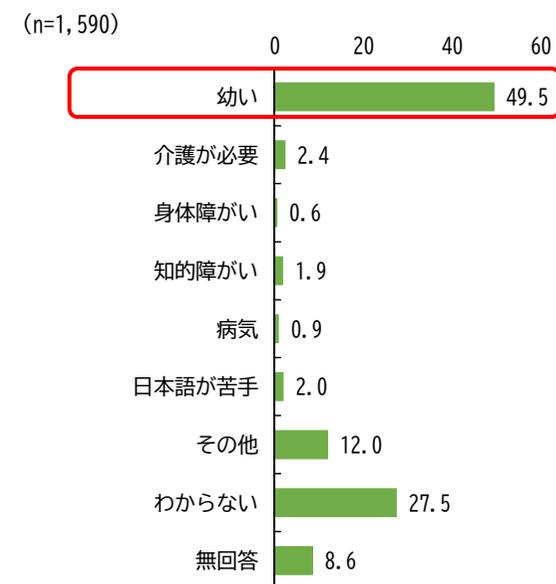
【小学生】（父母）



【小学生】（祖父母）



【小学生】（きょうだい）



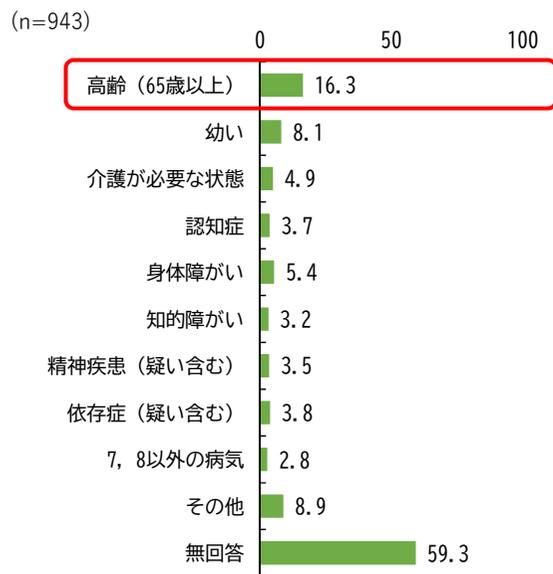
2 調査結果（児童・生徒・学生編）

(2) ② お世話をしている家族の状況（中学生）

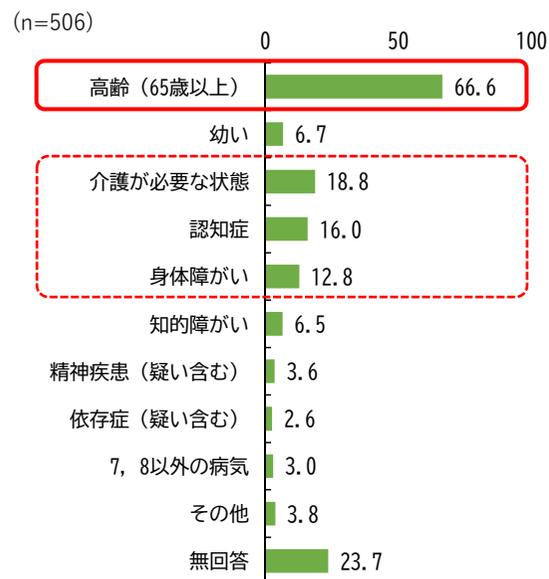
○お世話をしている家族が「いる」と回答した中学生にお世話をしている家族の状況について質問

○父母・祖父母では「高齢」、きょうだいでは「若い」が最も多かった。

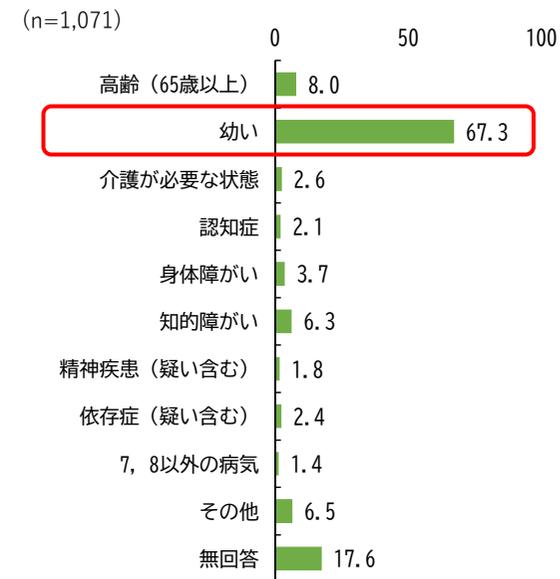
【中学生】（父母）



【中学生】（祖父母）



【中学生】（きょうだい）



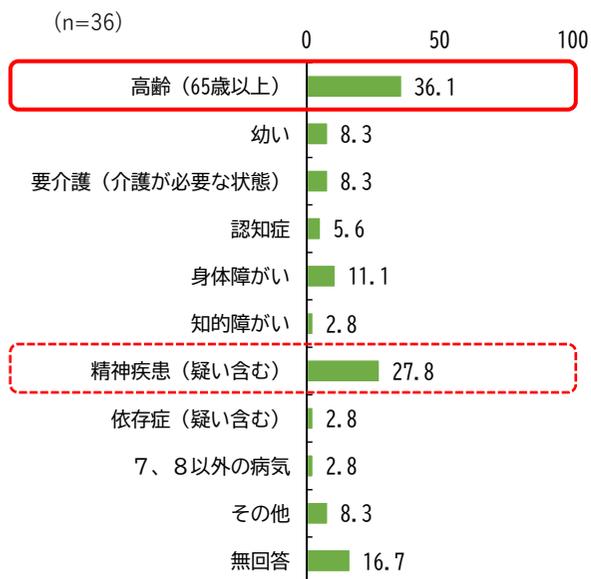
2 調査結果（児童・生徒・学生編）

(2) ③ お世話をしている家族の状況（大学生・短大生）

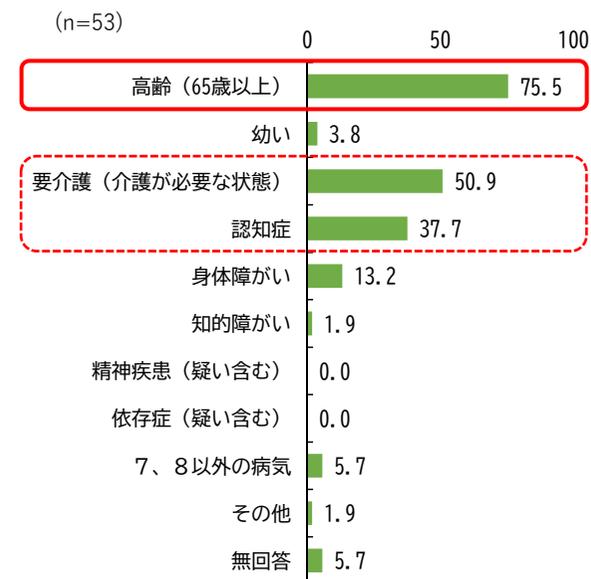
○お世話をしている家族が「いる」と回答した大学生・短大生にお世話をしている家族の状況について質問

○父母・祖父母では「高齢」、きょうだいでは「若い」が最も多かった。

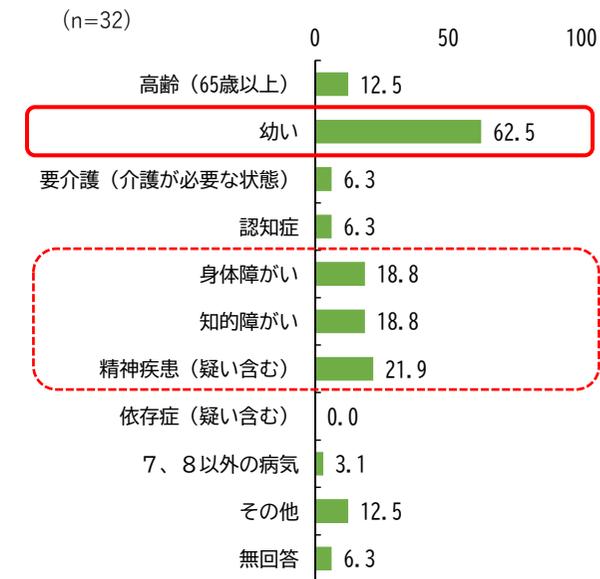
【大学生・短大生】（父母）



【大学生・短大生】（祖父母）



【大学生・短大生】（きょうだい）



2 調査結果（児童・生徒・学生編）

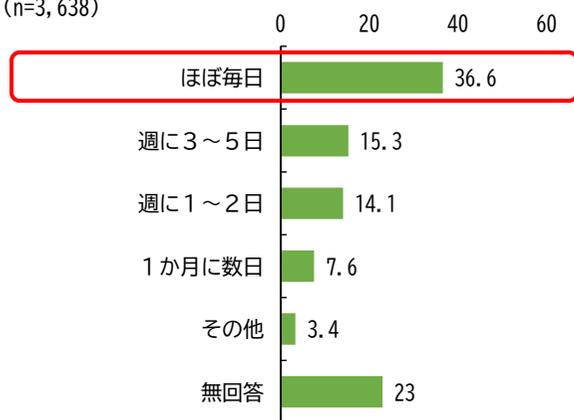
(3) お世話の頻度

○お世話をしている家族が「いる」との回答者に、お世話の頻度について質問

○いずれも「ほぼ毎日」が最も多かった。

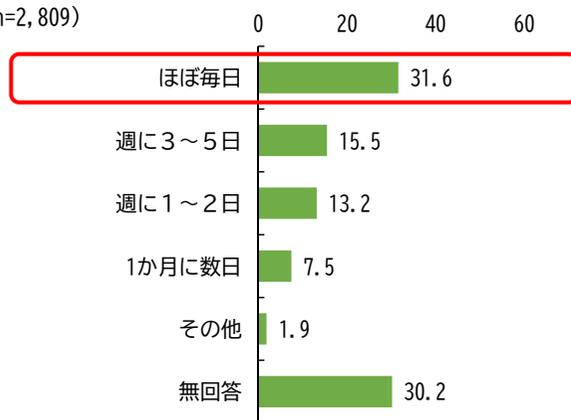
【小学生】

(n=3,638)



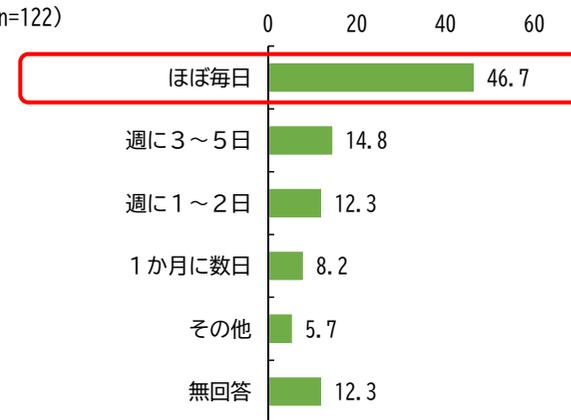
【中学生】

(n=2,809)



【大学生・短大生】

(n=122)



2 調査結果（児童・生徒・学生編）

(4) お世話を一緒にしている人

○お世話をしている家族が「いる」との回答者に、誰と一緒にお世話をしているかについて質問

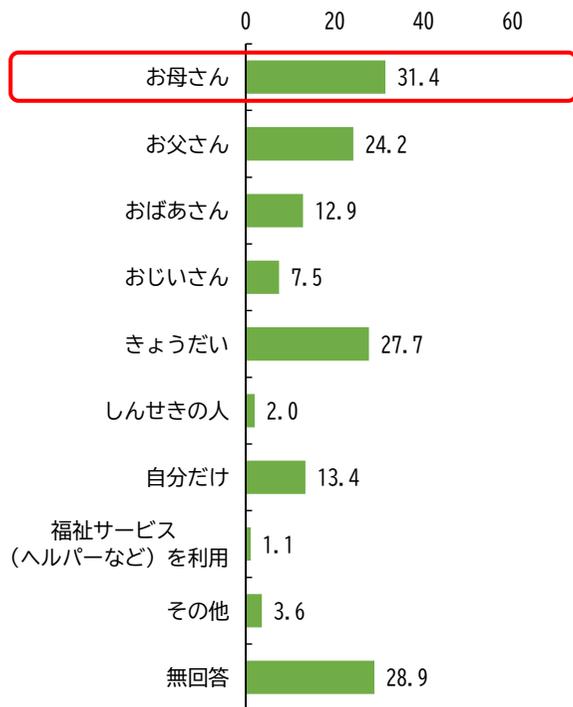
○いずれも「お母さん（母親）」が最も多かった

【小学生】

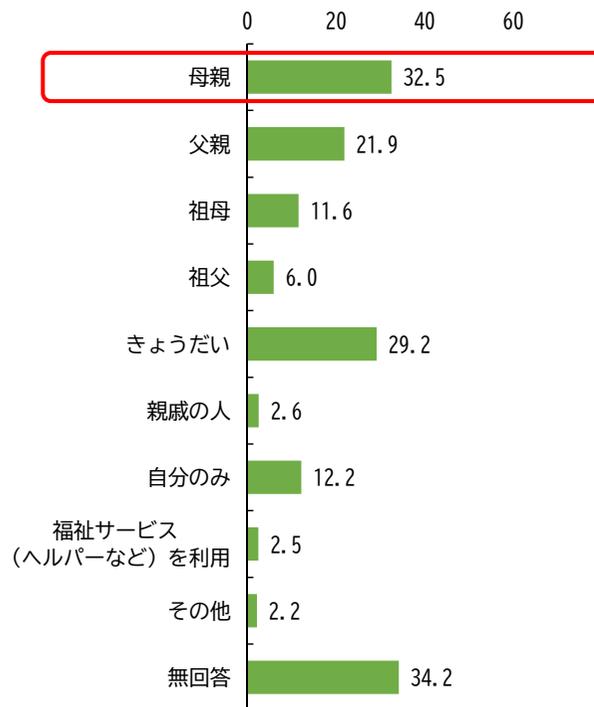
【中学生】

【大学生・短大生】

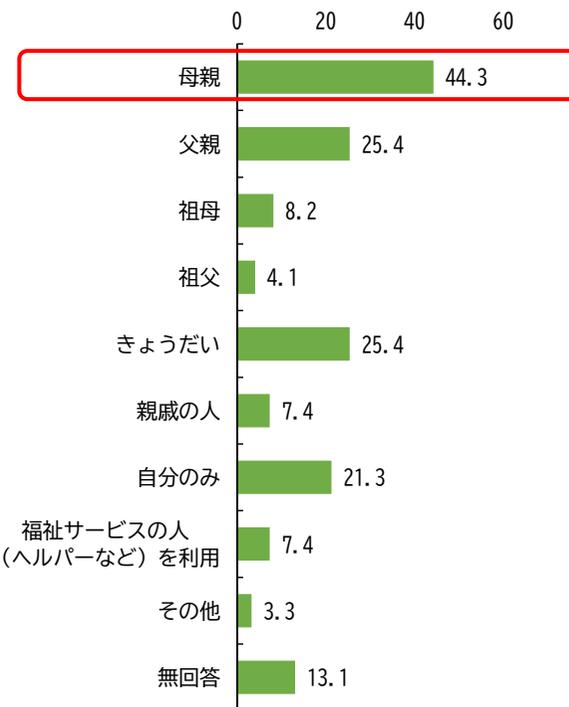
(n=3,638)



(n=2,809)



(n=122)



2 調査結果（児童・生徒・学生編）

(5) お世話をしていることによる家や学校での生活に対する影響

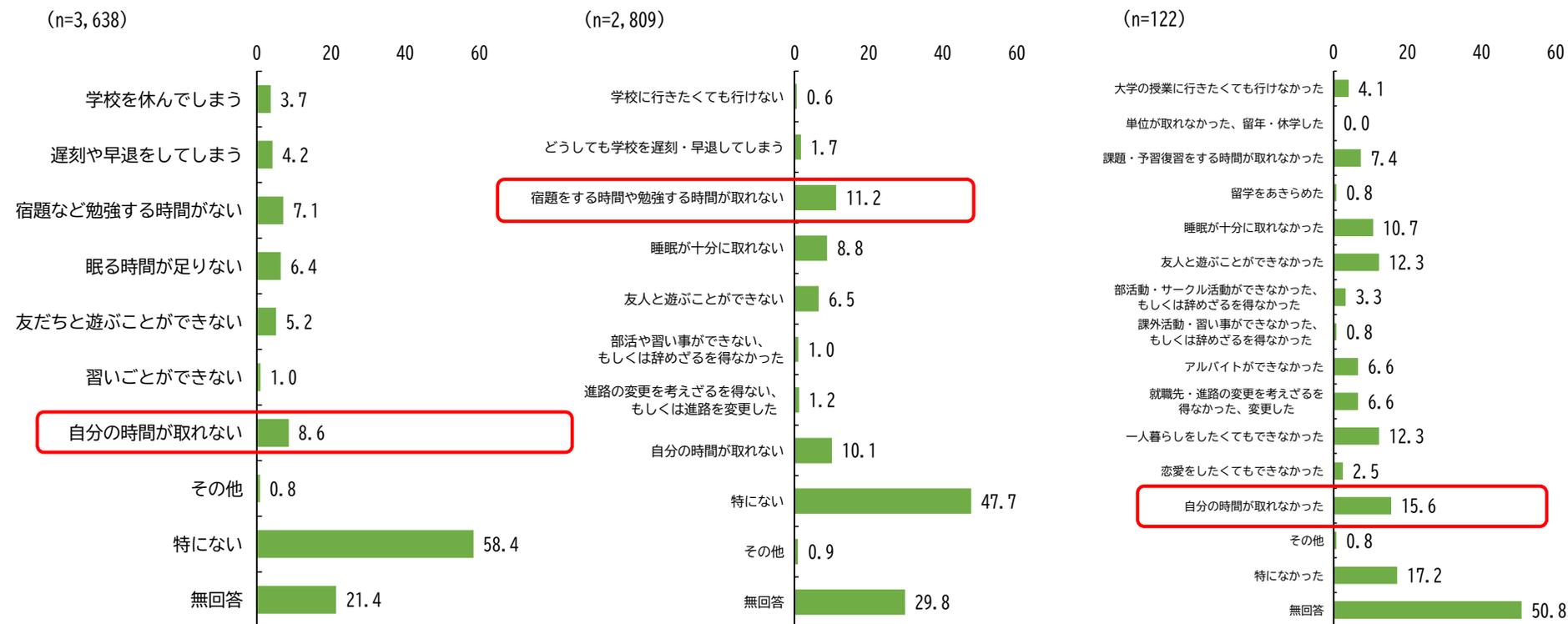
○お世話をしている家族が「いる」との回答者に、お世話による影響について質問

○「特にない」が最も多いが、次いで小学生では「自分の時間が取れない」が、中学生では「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」が、大学生・短大生では「自分の時間が取れなかった」が多かった。

【小学生】

【中学生】

【大学生・短大生】



2 調査結果（児童・生徒・学生編）

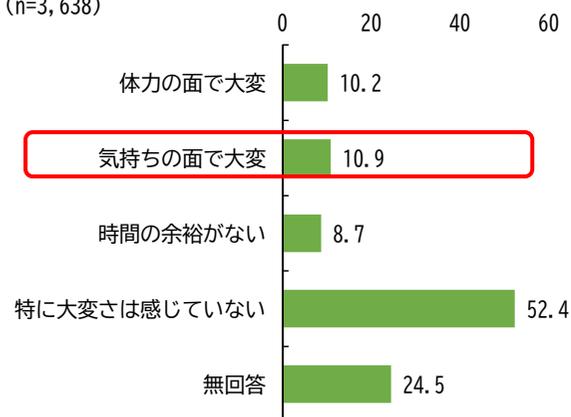
(6) お世話することの大変さ

○お世話をしている家族が「いる」との回答者に、お世話することに大変さを感じているかについて質問

○「特に大変さ（きつさ）は感じていない」が最も多いが、次いで小学生では「気持ちの面で大変」、中学生では「時間余裕がない」、大学生・短大生では「精神的にきつい」が多かった。

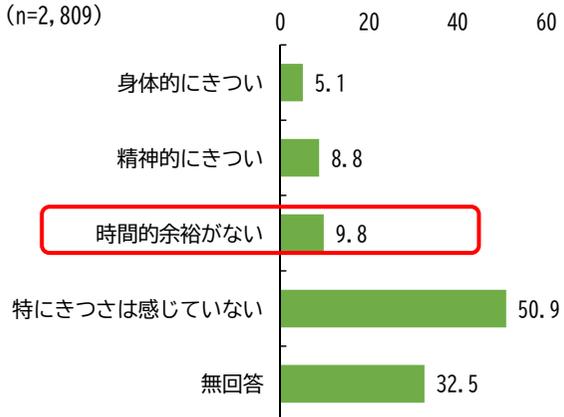
【小学生】

(n=3,638)



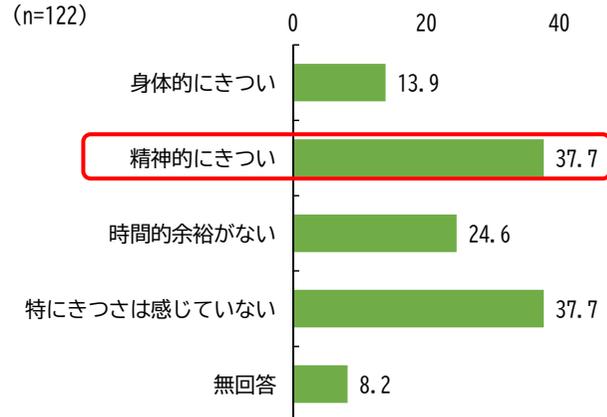
【中学生】

(n=2,809)



【大学生・短大生】

(n=122)



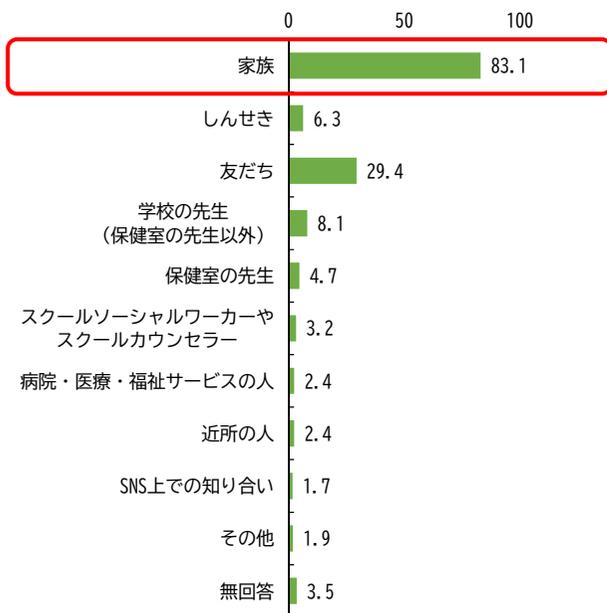
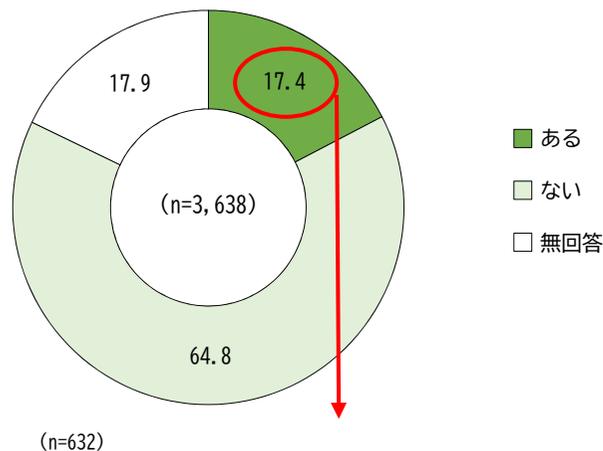
2 調査結果（児童・生徒・学生編）

(7) ①相談したことの有無（相談相手）

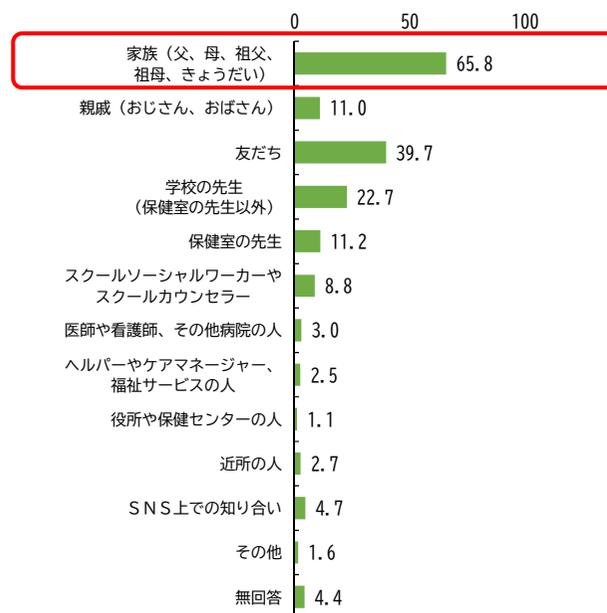
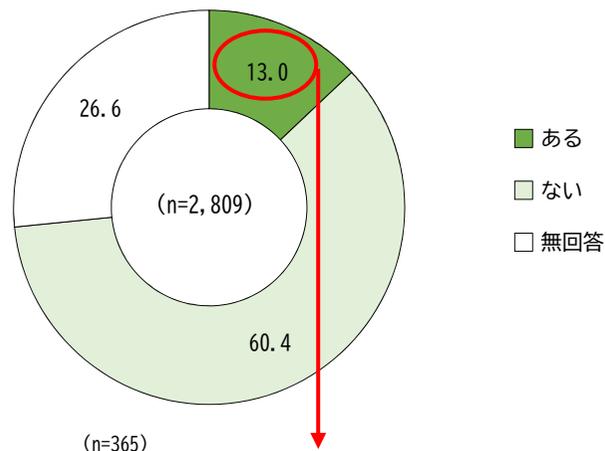
○お世話をしている家族が「いる」との回答者に、お世話をしている家族のことや悩みを相談したことがあるかについて質問

○いずれの年齢でも「ない」が最も多かったが、「ある」場合の相談相手は、いずれの年齢でも「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が最も多かった。また、「ない」場合の理由は、いずれの年齢でも「相談するほどの悩みではないから」が最も多かった。

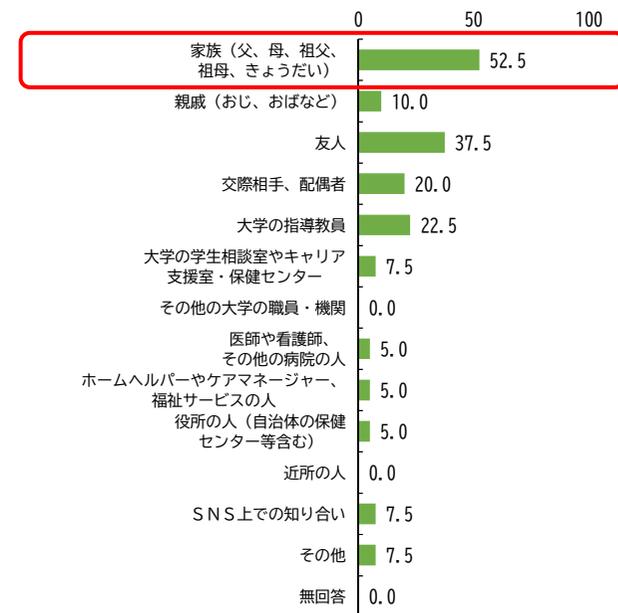
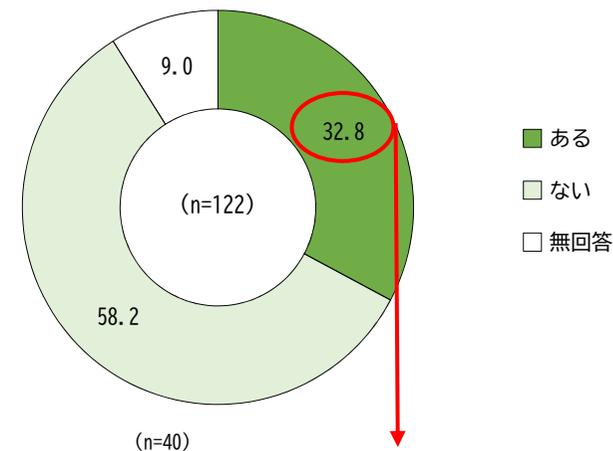
【小学生】



【中学生】



【大学生・短大生】



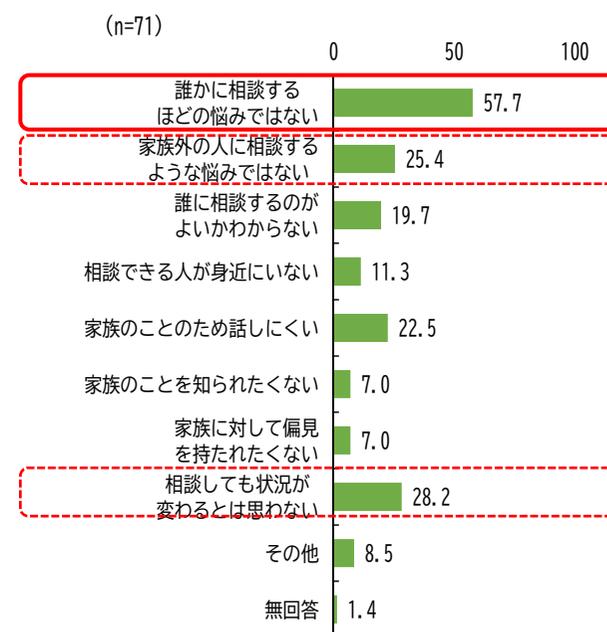
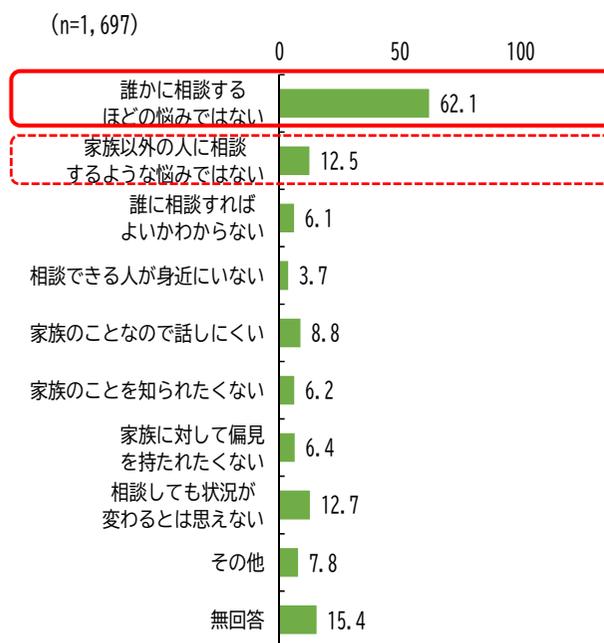
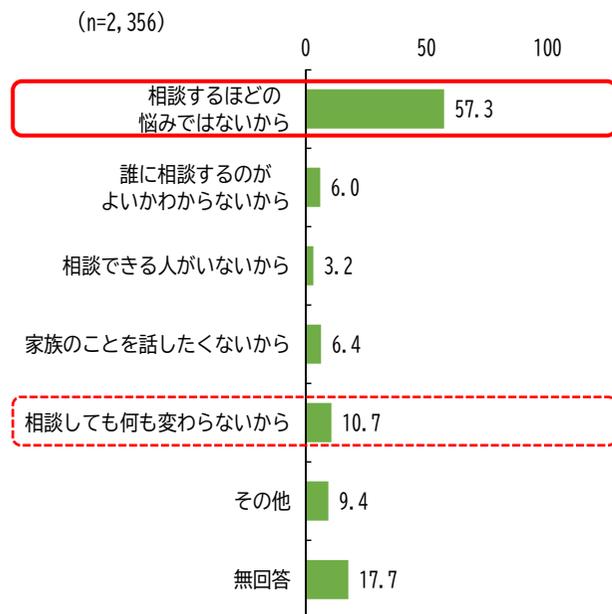
2 調査結果（児童・生徒・学生編）

（7）②相談したことの有無（相談していない理由）

【小学生】

【中学生】

【大学生・短大生】



2 調査結果（児童・生徒・学生編）

(8) 周囲に期待する支援

○お世話をしている家族が「いる」との回答者に、学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援について質問

○「特にない」が最も多いが、次いで小学生では「自分のことについて話を聞いてほしい」、中学生では「学校の勉強や受験勉強などの学習のサポート」、大学生では「自由に使える時間がほしい」が多かった。

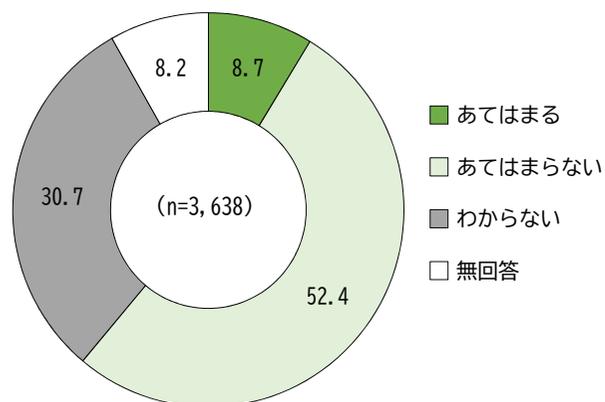


2 調査結果（児童・生徒・学生編）

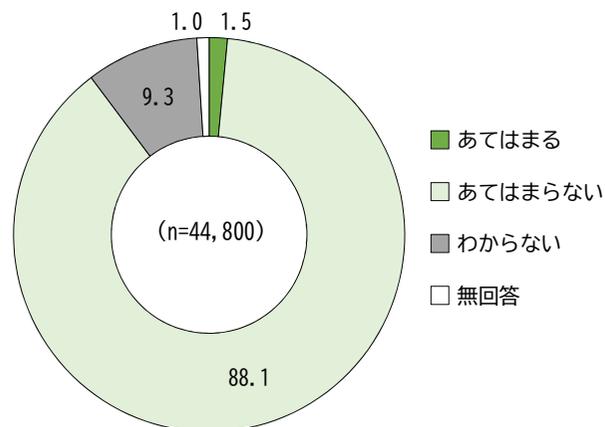
(9) ヤングケアラーであることの自覚

「ヤングケアラーである」と自覚している小学生は8.7%、中学生は1.5%、大学生・短大生は「現在あてはまる」が1.8%、「かつてあてはまった」が3.6%

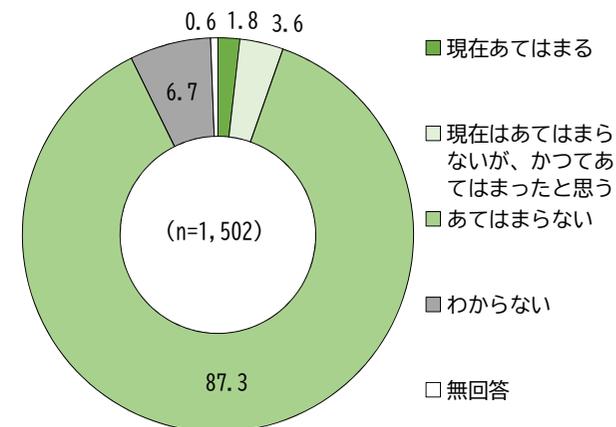
【小学生】



【中学生】



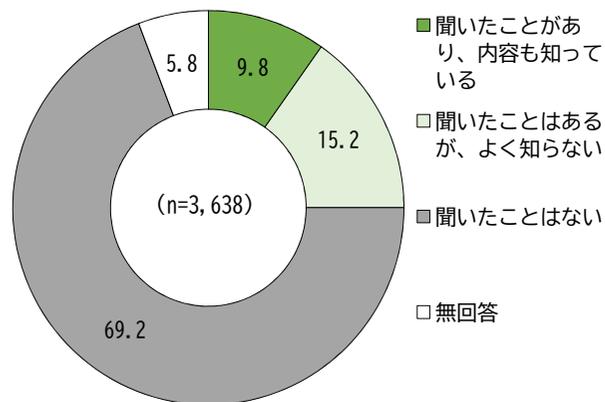
【大学生・短大生】



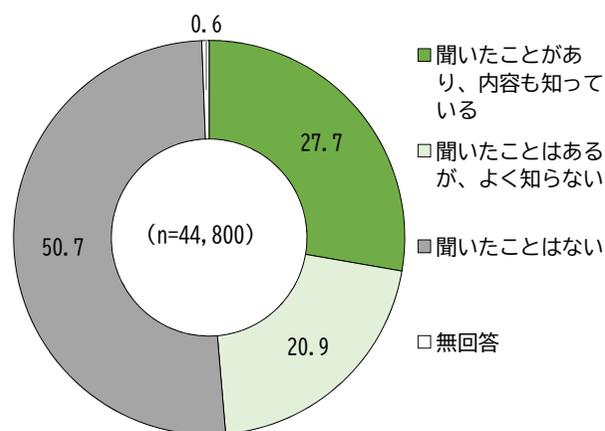
(10) ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーという言葉、「聞いたことがない」と回答したのは、小学生で69.2%、中学生で50.7%、大学生・短大生では15.7%

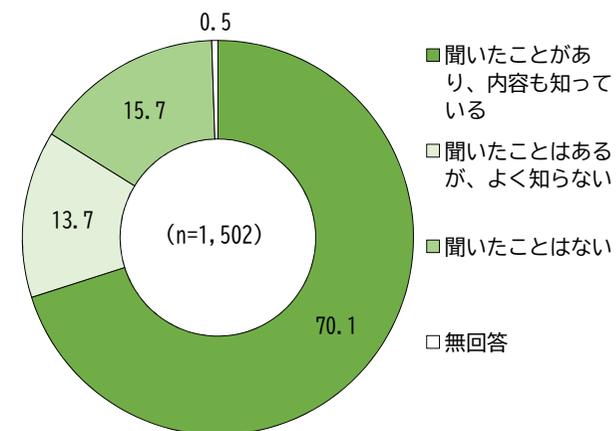
【小学生】



【中学生】



【大学生・短大生】



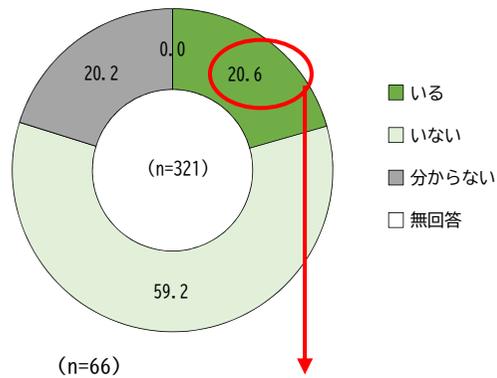
3 調査結果（学校編）

(1) ヤングケアラーと思われる児童・生徒・学生の有無とその状況

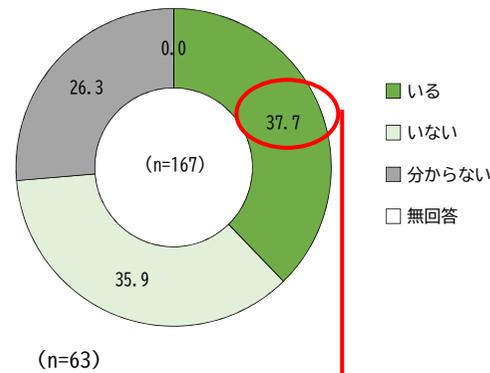
○学校に対し、ヤングケアラーに該当すると思われる児童・生徒・学生がいるか質問

○小学校では「いない」が、中学校では「いる」が最も多く、大学・短大では「分からない」が最も多かった。

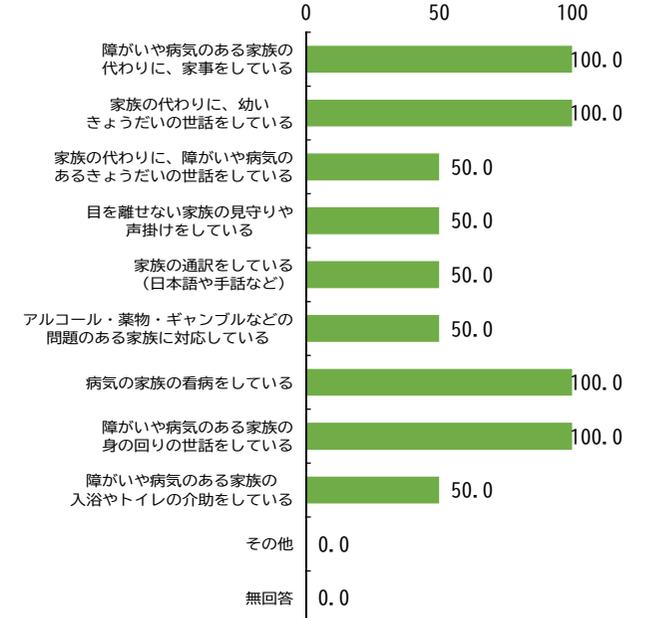
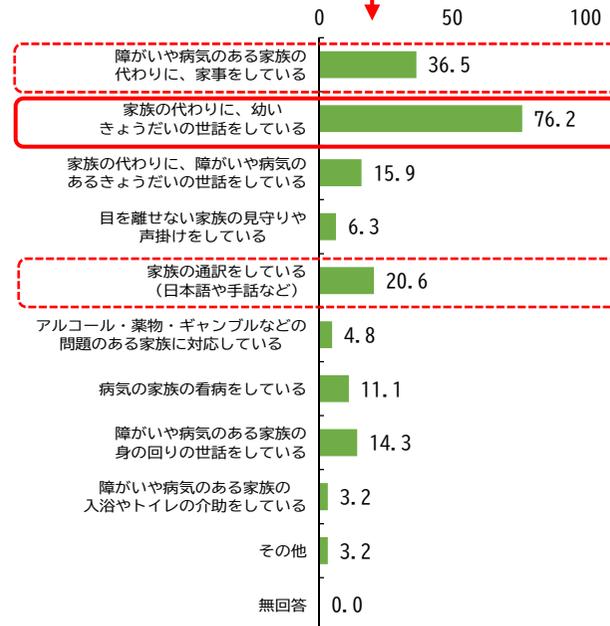
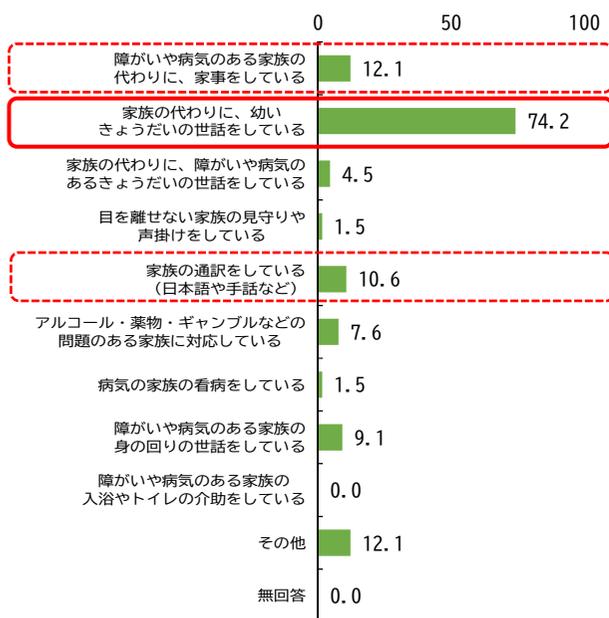
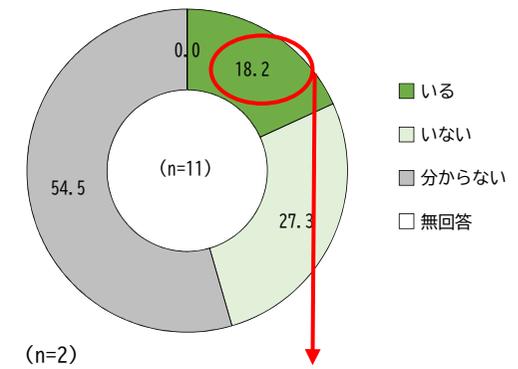
【小学校】



【中学校】



【大学・短大】



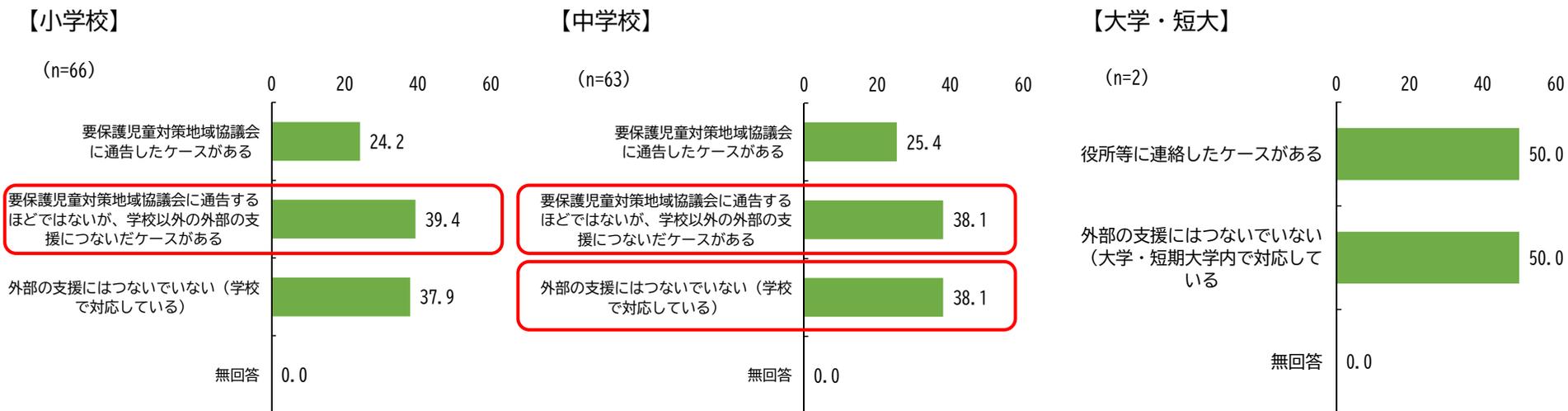
<ヤングケアラーと思われる子どもの状況については、小学校・中学校ともに「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が最も多かった>

3 調査結果（学校編）

(2) 外部の支援へのつながりについて

○ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した学校に対し、該当者を学校以外の外部の支援につないだケースがあるかについて質問

○小学校で「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」が最も多く、中学校で「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」、「外部の支援にはつないでいない（学校で対応している）」が同数、大学・短大で「役所等に連絡したケースがある」「外部の支援にはつないでいない（大学・短期大学内で対応している）」が同数であった。



3 調査結果（学校編）

(3) ヤングケアラー支援に必要なこと

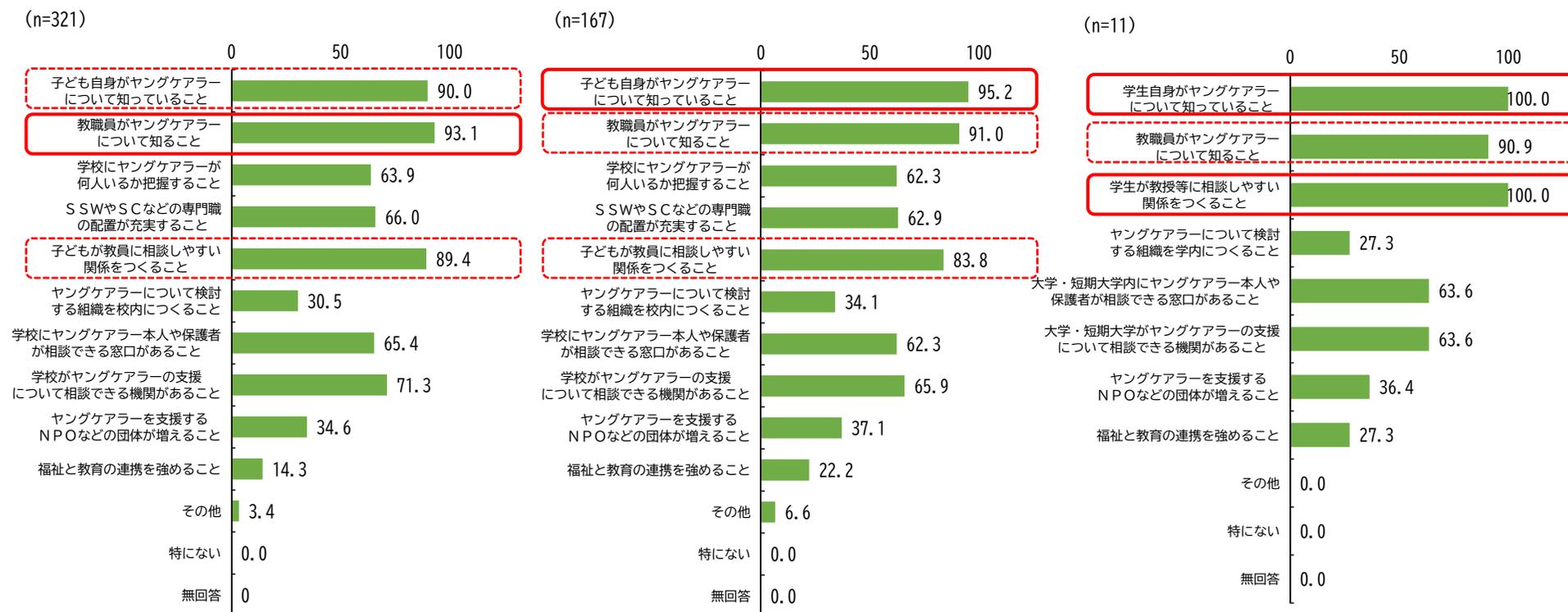
○学校に対し、ヤングケアラー支援に必要なと思うことについて質問

○小学校で「教職員がヤングケアラーを知ること」、中学校で「子ども自身が知っていること」、大学・短大で「学生自身が知っていること」及び「学生が教授等に相談しやすい環境をつくること」が最も多かった。

【小学校】

【中学校】

【大学・短大】



調査結果（児童・生徒・学生）

（1） お世話する人の有無とその家族

年齢が低くなるにつれてお世話する人がいる人の割合は高くなる傾向にあり、小学生で 11.6%、中学生で 6.3%、大学生・短大生で 4.5%となっている。

お世話をしている家族は、小学生・中学生では「きょうだい」が、大学生・短大生では「祖母」が最多となっている。また、小学生、中学生では「母親」が、大学生・短大生では「きょうだい」が 2 番目に多くなっている。

（2） お世話をする家族の状況

- ① お世話をしている家族の状況について、小学生では、父母をお世話する場合は「わからない」が、祖父母をお世話する場合は「高齢」が、きょうだいをお世話する場合は「若い」が最も多くなっている。
- ② 同じく中学生では、父母・祖父母をお世話する場合は「高齢」が、きょうだいをお世話する場合は「若い」が最も多くなっている。
- ③ 同じく大学生・短大生では、父母・祖父母をお世話する場合は「高齢」が、きょうだいをお世話する場合は「若い」が最も多くなっている。

（3） お世話の頻度

いずれの年齢でも、「ほぼ毎日」が最も多くなっている。

（5） お世話することによる家や学校での生活に対する影響

いずれの年齢においても、「特にない」が最も多いが、次いで小学生、大学生・短大生は、「自分の時間が取れない（取れなかった）」、中学生では「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」が多くなっている。

（6） お世話することの大変さ

いずれの年齢においても、「特に大変さは感じていない」が最も多いが、次いで小学生で「気持ちの面で大変」、中学生で「時間的余裕がない」、大学生・短大生で「精神的にきつい」が 2 番目になっているなど、身体面だけでなく精神面での負担も多いことがうかがわれる。

（7） 相談したことの有無

お世話をしている家族のことや悩みを誰かに相談したことがあるかについては、いずれの年齢においても「ない」が最も多かった。

相談していない理由としては、すべての年代で「相談するほどの悩みではないから」が半数を超えて最も多く、続いて、小学校で「相談しても何も変わらないから」、中学校で「家族以外の人に相談するような悩みではない」が多い結果となっている。

4 総括

(8) 周囲に期待する支援

いずれの年齢においても「特にない」が最も多いが、次いで小学生では、「自分のことについて話を聞いてほしい」、中学生では「学校の勉強や受験勉強などの学習のサポート」、大学生・短大生では、「自由に使える時間がほしい」との回答者が多くなっている。

(9) ヤングケアラーの自覚

自分がヤングケアラーだと自覚している人の割合は小学生が最も高い。一方で、「わからない」と感じている人の割合も小学生が最も高い。

(10) ヤングケアラーの認知度

年齢が高くなるにつれて、ヤングケアラーという言葉を知ったことがある割合は高くなる傾向にあり、「聞いたことがある」と回答したのは、大学生・短大生で83.8%、中学生で48.6%、小学生で25.0%となっている。

調査結果（学校）

(1) ヤングケアラーと思われる児童・生徒・学生の有無とその状況

小学生、中学生ともに「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が最多で7割を超えている。また、小学生、中学生ともに、「障がいや病気のある家族の代わりに家事をしている」、「家族の通訳をしている（日本語や手話など）」が2番目、3番目に多くなっている。

(2) 当該児童・生徒・学生の外部支援へのつながり

小学校、中学校のいずれも約6割の学校で、ヤングケアラーと思われる子どもを要保護児童対策地域協議会に通告もしくは学校以外の外部の支援につないだケースがある。

(3) ヤングケアラー支援に必要なこと

ヤングケアラー支援に必要なことについては、「子ども自身（学生自身）がヤングケアラーについて知ること」「教職員がヤングケアラーについて知ること」「子どもが教員に（学生が教授等に）相談しやすい関係をつくること」が多くなっている。